

正に神業のような早打ち

JJISXA 池

もう何年か前の話題ですが、シドニーで広告から無作為に抜き出された文章を如何に早く遠隔地に届けるかを競う、テキストメッセージングコンテストというのが行われたそうです。

「ねえ、彼女。今やってることとか、行く場所、着てる物をメル友全員にメールしたら」という英文を、「hey gf, u can txt best pals 2 tel them wot u r doing, where ur going and wot u r wearing.」と巧みに省略して携帯電話に入れた 13 歳の少女に対して、使い古された無線機と電鍵を使い、それを原文のまま、モールスで打ったゴードン・ヒル氏が 18 秒差で勝利したとのこと、優勝者のヒル氏(93歳)と受信係のジャック・ギブソン氏(82歳)は共に数十年の長いキャリアを持つベテランの通信士、メッセージングの世界での 19 世紀の発明の存在はまだ侮れません、ヒル氏は今後も他の大会への出場に意欲を燃やしているそうです。(一体、1 分間に何文字の速度だったのか?)

携帯電話の小さいボタンを押して、いかに早く文章を入力できるかを競うという競技会「SingTel SMS Shootout」というのがシンガポールで開催され優勝したのは、シンガポール出身の23歳の女性で、出された題材はスペースを入れて 160 文字の英文で、この女性はこれを 43.24 秒で入力したそうで、この競技会の前年には、イギリスの男性がこの文章を 67 秒で打ち込み、ギネスブックに世界記録として認定されていたようですが、この世界記録を大幅に塗り替えました。

優勝した女性だけでなく、第 2 位だった、やはりシンガポールの 18 歳の女子高校生も 43.66 秒という記録で、2 人とも 20 秒以上も記録を短縮させたこととなります。

今回の大会は、シンガポールの通信大手 SingTel(Singapore Telecommunications)が主催したもので、題材となった文章は「The razor-toothed piranhas of the genera Serrasalmus and Pygocentrus are the most ferocious freshwater fish in the world. In reality they seldom attack a human.」→(カミソリのような歯を持つ Serrasalmus 属と Pygocentrus 属のピラニアは、世界で最も凶暴な淡水魚です。実際に人を襲うことはほとんどありません。)というもの、すべてを入力しなければならないため、携帯電話の予測入力機能などの利用は禁止されたそうです。

優勝したこの女性は熱心な SMS のユーザーとのことで、月に平均で 1,500 通の SMS を送信しており、「入力が遅くなるために」予測入力機能は嫌いらしいが、決勝では、8 回のチャレンジのうち 4 回も 44 秒台をたたき出す安定した成績だったという。

前記のヒル氏は挑戦者になるかも知れませんが、ぜひ挑戦してもらい、モールスに軍配が上がることを期待します、いやはや、携帯打ちも、モールス打ちも(当然受信も)神業という他ありません、挑戦している PARIS-120 の速度の和文受信練習で、いまだにもたついている私とは、雲泥の差どころではありません。